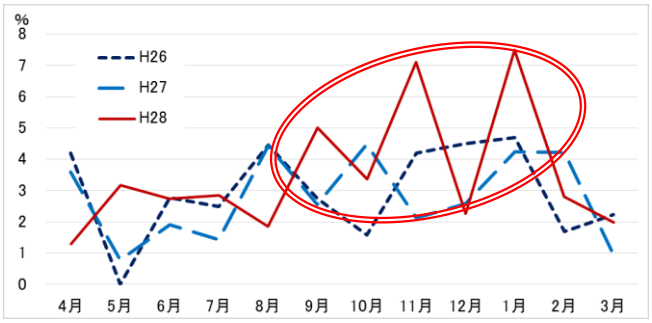
子牛の寒冷期管理のポイント

子牛は寒さに弱く、気温が 13℃を下回ると寒冷ストレスを受け、疾病にかかりやすくなり、ときには死ぬこともあります。

子牛の死亡実態をみても、冬場に高まる傾向にあります（右図）。

これから冬本番を迎えます。子牛の寒さ対策を万全にして、冬を乗り切りましょう。



乳用メス子牛の出生後 30 日以内死亡率（当日死除く）

（1）体をしっかり乾かす

生まれたばかりの子牛は体が濡れています。体が濡れたままだと熱が奪われやすく、子牛は寒さを感じます。

子牛の体はタオルやワラでしっかりと拭いて、十分に乾かしてからハッチなどへ移動しましょう。体をしっかりと拭くことはマッサージ効果にもつながるので、おすすめします。

（2）冷たいものに直接触れさせない・濡らさない・汚さない

子牛は、冷たい床や鉄柵に触れることで熱が奪われます。体を濡らさない、汚さないためにも、敷き料はたっぷり入れ、こまめに交換して乾いた状態を保ちましょう。

個別ペンの場合は、暖かさを逃さないため、壁や天井部分をシートやコンパネ等で囲うとよいでしょう（写真右）。

寒いときは、ほかにもカーフジャケットやネックウォーマー、赤外線ヒーターなども活用しましょう。

（3）新鮮な空気を供給する

冬期間であっても新鮮な空気は必要です。子牛の鼻面まわりでアンモニア臭がするようなら、換気が不十分というサインです。

暖かい日中には窓を開ける、換気扇をゆっくりまわすなどして汚れた空気を排出し、新鮮な空気に入れ替えましょう。

換気は大切ですが、すきま風は牛体にあたらないようにしましょう。冬場の強風を防ぐために、風よけとしてロールを使うのもひとつの方法です（写真）。

（4）エネルギーを増給する

寒くなると、子牛は自分の体を維持するためにより多くのエネルギーを使います。そのため成長にまわせる分が少なくなり、結果として増体が悪くなります。

冬場は、①ミルク（代用乳）の量を 10～15%程度増やして高濃度で給与する、または回数を増やす、②スターターの給与量を増やす、または栄養の高いものに変更する、などの方法でエネルギーを増給しましょう。

また、冷たい水は体を冷やします。冬期だけでもぬるま湯にして給与するとよいでしょう。

（2018 年 10 月発行　十勝農業改良普及センター十勝東北部支所）